

山桜の里 戸赤



1位 星光美さん



2位 小椋俊幸さん



3位 室井正司さん



平成23年度 戸赤区総会

山菜券販売功労者の表彰



4位 渡部利男さん



5位 小椋哲雄さん



戸石中央広場公衆トイレ掃除はやまざくら学校の掃除当番が一緒に行うことなど申し合わせた総会

平成23年度戸赤区総会は3月20日開かれました。主要役員の改選はなく、戸石中央公衆トイレの掃除はやまざくら学校の掃除当番と一緒にすることなど申し合わせました。山菜採り入山券販売功労者は1位星光美、2位小椋俊幸、3位室井正司、4位渡部利男、5位小椋哲雄さんで総数286枚(昨年316枚)売れました。

22年度事業報告で特徴的なことは、町事業の海の子山の子交流事業をやまざくら学校で受け入れたことでした。23年度この事業は下郷から横浜に行って交流することとなります。23年度村おこし関連事業では、阿賀野川上下流いきいきプロジェクト交流事業の補助期間が終了したことによる地区単独による事業の継続に加え、木地工房の技術習得セミナー委託事業も終了し自前の事業展開が必要となりました。

【木地の学習No.5】『新編会津風土記』では、佐藤和泉一族が慶山で初めて木地を挽いたことになっているが、郡山市湖南町三代中ノ入の小椋光久氏の先祖は、1年間城下の日野町にいて、翌天正19(1591)年には耶麻郡の黒岩へ移住しているように、城下に残らないで山間部へ移動している木地師たちもいたのである。いや、むしろ早くから山地へ移った木地師たちの方が多かったのではあるまいか。城下に残って木地を挽いていた者たちもやがて木地原木の涸渇に伴って山間部への移住を余儀なくされるが、その時期はいつごろであろうか。半田市太郎は「天正18年入部直後、木地師が招致され城下居住のまま木地製作に当たったが、寛永ごろから漸次山間居住に切り替えられて四方の山地に散在するようになっていた」と推定している。(奥会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)

福島県南会津郡
下郷町戸赤

花豆栽培
講習会

お知らせ

今回できた新しい
花豆加工商品を

試食します。

地区の人みんな

集まってください。

3月31日(木)
午後3時

戸赤集会所



巨大地震を報じる紙面

地震被害

謹んで
お見舞い
申し上げます。

平成二十三年三月十一日午後二時
四十六分ごろ、東北地方太平洋沖で
マグニチュード9・0の地震が発生
しました。
地震により被災された皆様に謹ん
でお見舞い申し上げます。

安全・安心な農産物の販売のために 農薬の適正使用について [No.4] (南会津農林事務所農業振興普及部資料から)

残留農薬基準違反になると

(1) 地域全体の農産物の販売にストップがかかります 残留農薬基準違反があると、新聞テレビ等ですぐに公表されます。また、残留農薬の分析には1週間かかります。残留農薬が基準値以内で安全だと確認されても、市場等の関係者に理解を求めために時間がかかり、出荷を再開する場合でも安全性を確認するため、再度残留農薬を分析するなど数週間から数カ月の間地域の農産物が売れなくなる(出荷停止を求められたりする)ので、地域全体に大きな損害を与えることとなります。

(2) 地域の農産物の良いイメージが損なわれてしまいます これまで地域の農家が創り上げてきたブランド農産物の信頼を失ってしまいます。いったん失った信頼を回復するには何年もの年月がかかります。(つづく)